

一〇二三年一〇月二七日

宿料理うつは代はりに大紅葉  
堆く落葉を被る石仏  
畠に鍬忘れて來たり秋の雷  
腰落とし綱引きのごと大根引く  
十三夜一朶の雲もよせつけず

嘶いて時代祭の動き出す  
一〇二三年一〇月二六日

途切れたる会話の卓に木の実落つ

ごろごろと親芋子芋孫の芋

夫逝くや慟哭やまぬ秋の暮  
一〇二三年一〇月二五日

秋天に手を振るごとく玻璃戸拭く

ハロウインお化けのままに眠る孫

秋扇ひらきて偲ぶ先師の句  
一〇二三年一〇月二四日

牛車軋む音も雅や時代祭

園児らの声迫りくる秋山路  
境内にクレーン車の立つ神の留守  
朝窓を繰るや否やの鳴高音

一〇二三年一〇月二三日

康子 落葉焚き炎かきわけ諸探す  
ぽんこ 面会を辞して身に入る夜風かな  
なつき この池に龍棲むといふ薄紅葉  
かえる 風神の来ませり庭に舞ふ落葉

満天 うつぎ

一〇二三年一〇月二三日

一身を置きて秋思の深き闇  
野分晴山肌撫づる雲の影  
藁ぼつちあち見こち見に傾きて

一〇二三年一〇月二一日

石の上に石と化す亀池小春

切株もある黄落の大並木

そやなあと返す夫と長き夜

湖囲む四圍の山並秋深し

秋日影ガラス細工のバラ透かす  
一〇二三年一〇月二四日

毎日句会みのる選・一〇二三年一〇月二九日

康子 うつぎ  
ぽんこ せいじ  
なつき

千鶴 落葉焚き炎かきわけ諸探す  
むべ 面会を辞して身に入る夜風かな  
もとこ この池に龍棲むといふ薄紅葉  
かえる 風神の来ませり庭に舞ふ落葉

素秀 うつぎ

一〇二三年一〇月二三日

明日香 あひる  
明日香 うつぎ  
明日香 むべ

康子 康子  
はく子 はく子  
澄子 澄子